

コロナの5類移行後半年…日常に戻りつつある医療・介護現場の今 “面会再開”が入院患者や入居者の励みに

11/15 富山テレビ



<https://news.yahoo.co.jp/articles/6ab0ddab71b01ab87211ab349406655ff415fbf8>

富山テレビ放送

インフルエンザへの警戒感が強まっています。

一方、新型コロナウイルスは、感染症法上の位置付けが「5類」に移行して半年が経ちました。

私たちの暮らしは日常に戻りつつありますが、医療現場や介護現場はどのような状況なのか取材しました。

■ 日常に戻りつつある介護現場

*入居者とのやりとり

「おはようございます。足が冷たそうですよ。ちょっとだけいい？OKです」

富山市の特別養護老人ホーム「ささづ苑かすが」です。

今年5月の5類移行後、部屋での面会を可能とし、外出や外泊の制限もなくしました。

コロナ前の日常に、かなり近づいているといいます。

*ささづ苑かすが 古柴政美施設長

「家族の方が来られて、入居者の顔を見て笑顔になる。あれが戻ってくるのが一番大事。

(入居者は)起きた時から『今日何時に(面会)来る?』きれいにして着る服も選んで、張り合い、暮らしのメリハリがつくようになる」

この半年、施設内でコロナの感染が相次いで確認された際は、一時的に面会を制限しつつも、コロナを「特別扱いしない」対応を続けています。

*ささづ苑かすが 古柴政美施設長

「法人ではインフルエンザと同等と言い切っている。それが一番大事だと思う。職員もい

つまでたっても心配しているし、前に進まない。しっかり感染対策を行いながら対応していく。判断は各々あると思うが」

■さほど変わらない医療現場

一方、医療現場では…、

＊富山市民病院 藤村隆院長

「高齢者や基礎疾患がある人は、重症化して体が動かなくなったり、喉が痛くて食事をとれなくなって入院するケースがある。完全な風邪というわけにはいかない。インフルエンザか、インフルエンザより強い疾患といった捉え方」

感染症指定病院の一つ、富山市民病院です。

この半年、高齢者や基礎疾患がある人を中心に、コロナの入院患者は途切れていません。

そうした中、5類移行後に再開したのが病室での面会です。

＊面会のシーン

「ナシ持ってきたよ。ちょっと食べられたらいいね。無理せんでいいけど」

「後で食べる」

「15分でも顔見られると、ちょっとホッとするわ」

つわりがひどく2週間前に入院した女性（富山市・30代）です。

面会は家族に限り2人までで、時間も15分間と制限はありますが、電話やメールでは得られない安心感につながっているといます。

＊2週間前に入院 富山市の女性（30代）

「1日病院にいと、看護師さんが優しくても、気がめいってしまうので、家族と会えるのはいい。病院の食事があまり食べられなくて、母に持ってきてもらうのがちょっと食べられるくらいだから」

＊面会に来た母親

「(病院から)大丈夫、元気になっていると聞いていても、聞くのと見るのは違う。限られた時間だけと合わせてもらえるのは嬉しい。やっと授かったから、心配で」

ただ、この面会もコロナの患者が増えた9月からの1カ月半は休止していて、病院は今後も、感染状況を見ながら制限と緩和を繰り返していく方針です。

＊富山市民病院 藤村隆院長

「病院は患者を治すために入ってもらっている。その人の足を引っ張るのはありえないこと。100%防御はできないが、もうかかっている方が入っていることを想定しなければいけない。それを社会全体でやれということはない。少なくとも、高齢者やハイリスクのある患者がいる病院では守るために、(対策を)継続しなければならない」

■インフル警戒の小児科医院

(去年1月／八木小児科医院)

「37.5度、のどの痛み」

子どもの感染が広がっていた第6波の際の映像です。

富山市の八木小児科医院では、毎日5件から10件ほどのPCR検査や抗原検査を行いました。

当時は、陽性も相次いで確認されていました。

(今の八木小児科医院)

現在は…。

八木小児科での直近1週間のコロナの患者はゼロ。

コロナの検査をするのも稀だといいます。

ただ、インフルエンザの患者は徐々に増え、先週は30人ほど確認されました。

県全体の数を見ても、10月中旬以降はインフルエンザの患者数がコロナの患者数を上回っています。

八木医師は症状にも明確な違いがあるといいます。

*八木小児科医院 八木信一医師

「(コロナは) かかっても、重症化していく印象はなくて、むしろ、インフルエンザに罹って、高熱が出る、せきが長引くという患者の方が多い」

さらに、八木医師は、現在流行しているインフルエンザA型には2つ種類(株)があるため、短期間に2度感染するケースが実際に起きていると言い、免疫を高めることが重要だと訴えています。

*八木小児科医院 八木信一医師

「この3年間は、全員、色々な風邪の抵抗力がないので、色々な風邪に罹る可能性が十分ある。今シーズンはインフルエンザとコロナが年明けまで交互に流行することが考えられる。生活習慣をきちっとして、十分睡眠をとって、栄養をとることで、抵抗力をつけることが大事」

八木医師はこれまでの経験上、この冬はコロナとインフルエンザが交互に流行し、特に、1、2月に本格流行するとみられるインフルエンザに注意が必要と話しています。

コロナが5類に移行しても、今シーズンは引き続き感染対策が求められます

